



南小だより

【第3号】 令和4年6月6日発行

【知育】 よく考えて勉強する子
【徳育】 思いやりのある子
【体育】 からだを丈夫にする子

さくら市立南小学校長 沼尾 昇

南小学校を空から見ました。

南小学校ホームページ 活動の様子の下→メニュー→お便り→令和4年フォルダに、この南小だよりを入れました。あわせてご覧ください。



この2枚は、令和4年4月30日に、南小の上空約1,000メートルから、撮影しました。

趣味でグライダーに乗っています。勝山や上阿久津の上空を飛んでいますので、グライダーを見ている方も多いかもかもしれません。

南小の上空からの写真は、グライダーに乗りながら撮影したものです。

氏家大橋のたもとに、宇都宮大学の滑空場があり、そこから離陸します。

グライダーは、エンジンがありませんので、自力で離陸することはできません。離陸の方法は、いろいろあるのですが、普段は、グライダーにワイヤーを取り付け、そのワイヤーを滑走路上に約1キロメートル伸ばし、ウィンチを使って巻き取ります。ワイヤーにグライダーが引っ張られ、離陸するという方法です。凧あげと同じですね。約500メートルまで上がり、ワイヤーを切り離します。そこから、上昇気流を捕まえることができれば、条件にもよりますが、2,000メートルくらいまで上昇することができます。次々に上昇気流をつかまえることができれば、5時間の滞空も可能です。いかに、上昇気流をつかまえ、上手に上がることができるかが醍醐味です。

学生時代は、一人で乗ることもできたのですが、だいぶブランクがあいてしまったので、今は教官に後席に乗っていただいて、二人で飛行しています。教官は、上阿久津に在住の加藤道昭さんです。

グライダーは、安全な乗り物です。宇都宮大学の滑空場では、約60年の間、大きなけがや死亡する事故は、全くありません。私の年齢でも、無理なく楽しむことができます。これからも、時間を見つけて飛び続けたいと考えています。



前席が 私 沼尾です。
後席が 上阿久津在住の
加藤道昭教官です。



離陸の様子です。
ワイヤーを巻き取り、グライダーを
引っ張っています。



着陸の様子です。
主翼から、ダイブブレーキという板を出し、
抵抗を増やすことで、降下してきます。